

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

キュウリでのコナジラミ類の防除対策の徹底について

キュウリにおいて、コナジラミ類（写真1）の発生が平年より多くなっています。また、タバココナジラミが媒介するウイルス病である退緑黄化病（写真2）の発生もみられています。

については、下記事項を参考に本虫の防除対策を徹底し、次作に持ち越さないよう生産者への指導をお願いします。



写真1 タバココナジラミ

記

1. 発生状況

10月18日～21日に実施した定期調査におけるコナジラミ類の発生株率は、40.6%（平年16.1%、前年43.3%）であり、平年より高い（図1）。また、発生圃場率は77.8%であり、多くの圃場で発生している。

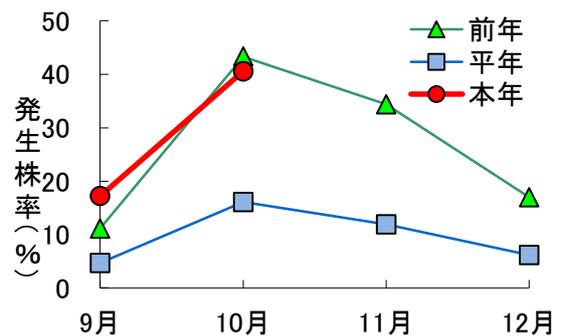


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

2. 防除対策

- 1) 薬剤防除にあたっては、表1を参考とし、早期発見・早期防除に努める。ただし、薬剤の効果は圃場によって異なるので、薬剤散布した後は、必ず効果を確認する。
- 2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。また、薬剤抵抗性の発生リスクが低い、気門封鎖型薬剤を活用する。
- 3) コナジラミ類の幼虫・蛹は、下葉に寄生していることが多いため、不要な葉は可能な限り早めに除去する。除去した葉は、圃場内に放置せず、ビニール袋で密閉処理するなど、適切に処分する。
- 4) コナジラミ類およびアザミウマ類に対する薬剤防除を栽培後期まで継続し、施設内の害虫密度を低くする。さらに、改植時には、薬剤を用いた残渣処理および施設密閉処理を十分な期間確保して実施し、ウイルス媒介虫の死滅およびウイルス病罹病株の枯死を図る。
- 5) 施設開口部への防虫ネット被覆やウイルス病罹病株の除去処分等、その他の防除対策については、「佐賀県病害虫防除のてびき（p181、198）」を参照する。

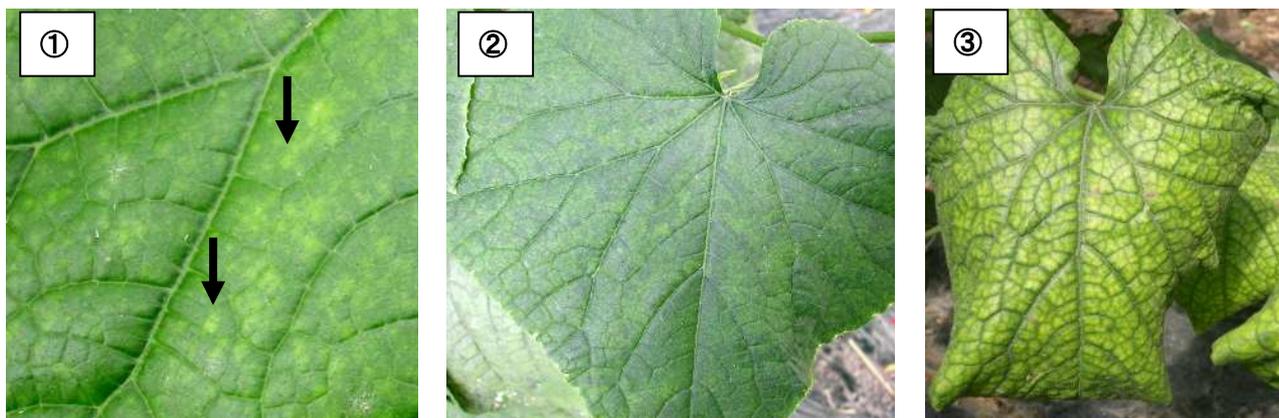


写真2 タバココナジラミが媒介するキュウリ退緑黄化病の症状

注) はじめに、葉に退緑小斑点が生じる(①)。その後、斑点が拡大・癒合しながら(②)葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、症状が進展すると、葉縁が下側に巻く症状が認められる(③)。

表1 タバココナジラミ成虫に対する殺虫効果(佐賀県農業試験研究センター、2021年)¹⁾

供試薬剤	IRAC コード	供試 濃度 ²⁾	処理5日後の補正死虫率 ³⁾					
			A圃場	B圃場	C圃場	D圃場	E圃場	F圃場
ベストガード水溶剤	4A	2,000	100	87	100	98	59	90
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2,000	21	23	18	49	13	0
トランスフォームフロアブル	4C	1,000	81	86	76	98	24	70
ディアナSC	5	2,500	44	84	91	94	67	96
アグリメック	6	500	100	100	100	100	100	100
アニキ乳剤	6	1,000	100	100	100	100	100	100
アフーム乳剤	6	2,000	100	100	100	100	100	100
コルト顆粒水和剤	9B	4,000	27	86	69	81	66	33
ベネビアOD	28	2,000	88	85	81	98	58	82
ヨーバルフロアブル	28	2,500	0	28	0	13	0	10
グレーシア乳剤	30	2,000	38	87	71	100	91	86
パルミノフロアブル	UN	2,000	78	92	48	54	57	51

1) 県内のキュウリ圃場から採取したタバココナジラミ成虫を葉片浸漬法により薬剤感受性検定を実施。

2) 検定に供試した濃度であり、**登録の有無や使用濃度は必ず最新の情報を確認する。**

3) 補正死虫率=(水処理区の生存率-薬剤処理区の生存率)/水処理区の生存率×100。補正死虫率が高いものほど効果が高いことを示し、80以上のものを太字で示した。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

防除のてびき掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

防除セ QRコード*



てびき QRコード*

